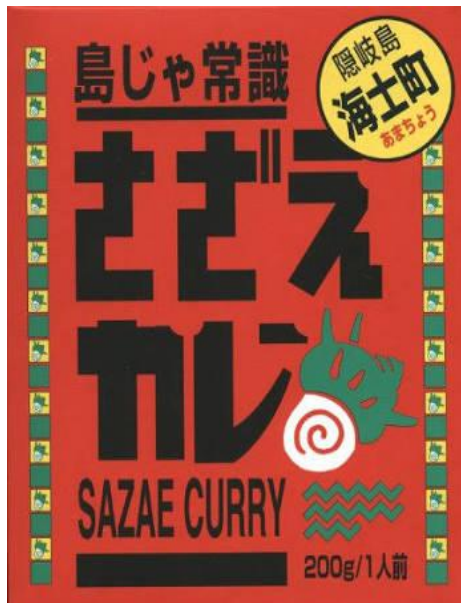


# 自立に向けた海士町の挑戦

海士町は平成の大合併の嵐が吹き荒れる中、単独町制の道を歩むことを決断し、自立するために様々な挑戦を行ってきた。人口減少・少子高齢化・財政難などの課題と向き合い、限りなき挑戦を生み出してきた一つの原動力は、

島外との積極的な**交流**にある



島じゃ常識で誰も注目していなかった「さざえカレー」に着目したのはよそ者。年間で4万個を超えるヒット商品に。



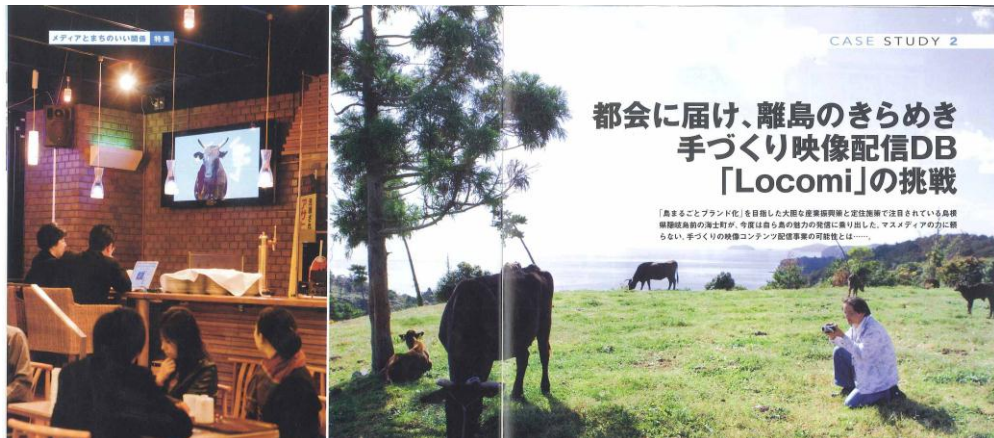
古くから島にある「ふくぎ茶」を商品化したのは、島の宝探しに商品開発生としてやってきた若者。今では、島のハーブティーとして島内外の多くの人達に親しまれている。



島の伝統産業であった塩づくりを継承したのは、島にやってきたIターンの熱意。伝統の技が継承されるとともに、塩から梅干しなど新たなものづくりへ発展。

# 交流を生み出す仕組みづくり ①

離島の持つハンディを克服するため、  
**ICTを活用した情報発信**や  
都市への**アウトリーチ型の仕掛け**により、  
島外との交流を加速させてきた



ICTを活用して海士町の映像を都会の居酒屋に配信。島の風景を見ながら食材を味わってもらうことで海士ファンを増やす。



ワゴン車を東京まで走らせ、若手の社会人や大学生を乗せて海士町へ。中学校での出前授業や島体験を通じて、海士町に移住する者も。今年で10周年になる。



海士町の食材を東京などの都市部に届けるため、移動店舗として「離島キッチン」をオープン。平成27年には東京の神楽坂に店舗がオープンし、全国の30を超える離島の食材・料理を提供している。離島キッチンを通して海士町のことを知って海士町を訪れる人も。今では、離島の情報発信拠点にもなっている。



独立行政法人国際協力機構（JICA）が持つ研修機能の一部移転や、新宿日本語学校との連携などにより、海外との交流を10年前から実施。多くの外国人が離島である海士町へ研修生として来島している。



# 交流を生み出す仕組みづくり ②

地域の持つ資源を最大限に活かし、  
**教育を魅力化**することで、  
統廃合の危機にあった高校が、  
今では全国から生徒が集まる人気校へ

ようこそ 島留学

自分らしく生きられ、  
したこともない体験や、  
ステップアップにたくさん由らせる

この島で、最幸の高校生活をすごしませんか

学力+人間力保障  
客費ら全額補助  
選定10人募集中

極上の島留学

隠岐島前高校魅力化プロジェクト

島唯一の高校である島根県立隠岐島前高等学校の統廃合の危機を乗り越えるため、平成20年に「高校魅力化プロジェクト」がスタート。島をまるごと学校と捉え、地域の住民が先生となり、地域の課題を教材にすることで、高校を魅力化する。全国から意欲ある生徒を募集する「島留学」という制度を創設し、平成25年には、離島・中山間地域の高校としては異例の学級数増・2クラス化を実現。海外からも留学生が来ている。



高校生が島の魅力を伝えることで観光甲子園に優勝する。生徒が実際に観光プランを自分達で実行することにより、今でも多くの交流を生み出している。



平成27年度には文科省のスーパー・グローバル・ハイスクールに認定され、島外だけでなく海外との交流も加速している。平成28年度は、これまで行ってきたシンガポール研修に加え、ブータンやロシアへの研修を実施し現地で発表することで、島の魅力を世界に発信する。

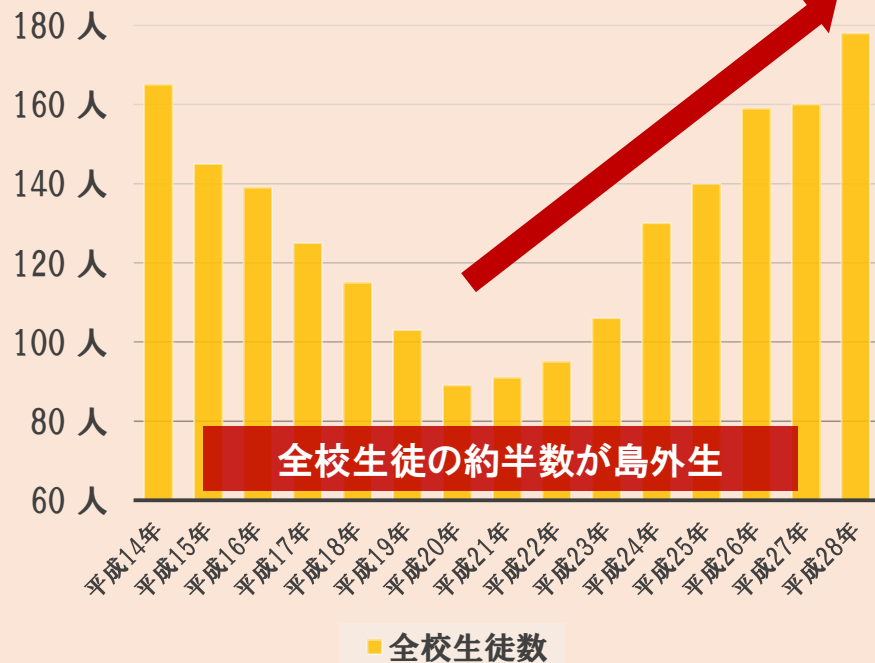
**高校生が魅力を全国・世界に発信**

# 人の流れを反転

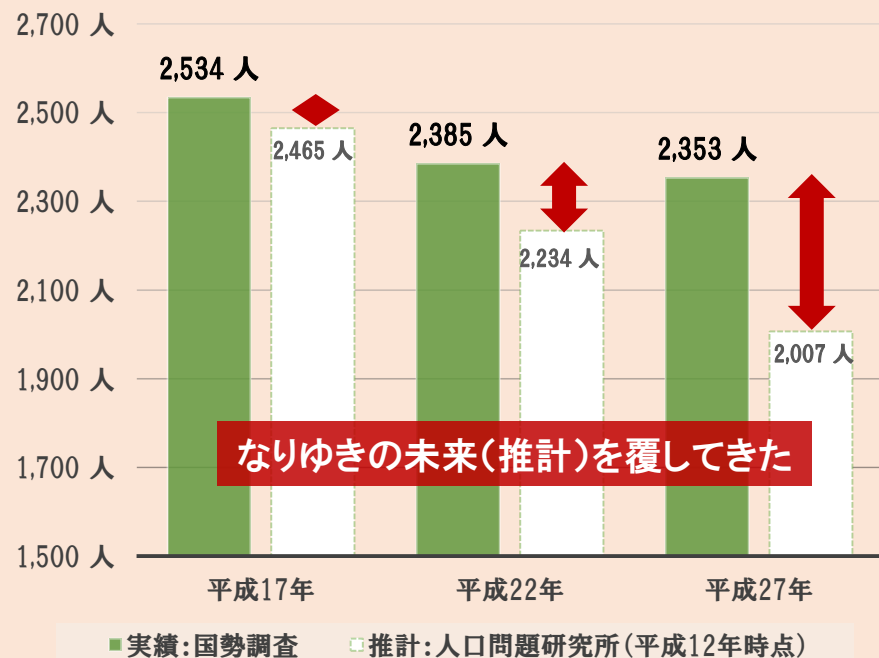
島の魅力を全国に発信し、  
交流から生まれる挑戦の連鎖を生み出すことにより、  
これまでの「地方から都市へ」という

**人の流れを反転**させることで、  
自立への一步を踏み出している

## 島前高校の全校生徒数



## 海士町の人口





# 「ICT・IoT」×「交流」の可能性

人の流れが反転することで、  
ICT・IoTを活用した挑戦が進み、  
人材育成にもつながる。そして、

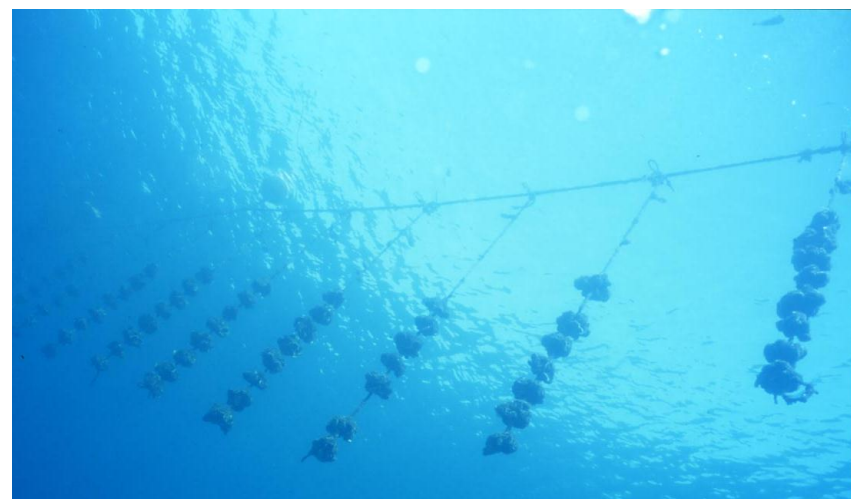
**更なる交流**が生まれている



NTT西日本と海士町との包括協定により、最新の遠隔授業システムを導入。遠隔授業のできるIターンのスキルを活用しながら、遠隔地の高校とつなぐことで離島のハンディを乗り越えた多文化協働の学びを実現している。若手スタッフと二人三脚でプロジェクトを進めており、人材育成にも寄与している。



プログラミングのできるIターンが、高校生や地域住民を対象としたプログラミング講座を実施。学習を通じて島外のプログラマーによる専門的な学習に発展している。



情報通信機能のあるブイを導入し、岩牡蠣養殖に必要な海水温やクロロフィルなどをリアルタイムに測定。プロジェクトを機にICT×漁業の専門家との交流も始まる。